

サステナブル・ファイナンスを通じた環境・社会課題解決への貢献

農林中央金庫が目指す サステナブル・ファイナンス

当金庫は、農林水産業を支える協同組織の一員として、自らのビジネスが、農林水産業の営みによる「いのち」や自然の循環とともにあることを認識したうえで、環境・社会課題の解決を通じ、農林水産業を含む社会、そして当金庫の事業活動が持続可能なものとなるよう、SDGsの実現をはじめとする

サステナブル経営を推進しています。その実現に向けて、ファイナンスを通じてこれらの課題に取り組んでいきます。サステナブル・ファイナンスの実施にあたっては、「ビジネス機会獲得」と「リスク管理」の2つの側面からアプローチをしていくこととしています。また、従来の財務リスクに基づく与

信判断に、環境・社会リスク認識を統合した「ESGインテグレーション」の枠組みも導入し、内部牽制のみならず、取引先と対話を行うためのツールとしても利用していきます。

ビジネス機会獲得

ESGテーマ型投融資

→ P18

収益の確保を前提に、持続可能な社会や農林水産業への発展につながる投融資を実践します。

2020年度の新規投融資目標=2,500億円

市場運用資産のうち残高1.8兆円(2020年3月末時点)

サステナビリティ・リンク・ローン

→ P19

投融資先の経営戦略上の環境・社会課題解決に向けた取組みを促進するとともに、中長期的な企業価値向上をサポートすることを目的として、2020年5月、サステナビリティ・リンク・ローンの取扱いを開始しました。

再生可能エネルギー需要に対するJAバンクの取組み

→ P20

ESGインテグレーション

→ P18・21

従来の財務リスクに基づく与信判断に、環境・社会リスク認識を統合した投融資の意思決定プロセスの構築を目指します。内部牽制のみならず、非財務情報を活用して取引先と対話を行うためのツールとしても利用していきます。

リスク管理

環境・社会リスク管理(ESRM)

→ P21

個別の投融資先やプロジェクト関連の取引に対する投融資の判断を行う先に、環境リスクと社会リスクを評価・検討することを目的として、ESRM態勢を構築しています。

■ ESRM のフレームワーク

